

健康にも環境にもやさしい自転車で

陽だまり-歴史めぐり サイクリング@土浦



- ◆小学生高学年以上、どなたでも
- ◆自転車はクロスバイク、ミニベロ、ママチャリ、ロード、レンタサイクル(まちかど蔵にあり)、何でもOK!
- ◆走行距離は20kmほど

2026年

1月25日(日)

9時30分~12時

晴天時のみ実施(前日19時までに決定)

◆集合・解散

土浦まちかど蔵(駐車場)

(土浦市中央)

◆申込はQRコードから
10人ほどで実施予定



コース (一部に未舗装道路あり)

土浦まちかど蔵を出発

- ⇒ 土浦聖バルナバ教会
- ⇒ 亀城公園・土浦市立博物館
- ⇒ 柴沼醤油 ⇒ 土浦用水取水口
- ⇒ 穴塚大池
- ⇒ 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
- ⇒ 馬頭観音道標
- ⇒ 大聖寺 ⇒ 土浦まちかど蔵

お願い

- ・主催者は事故等には責任を負えません。

主催

土浦サイクルシティくらぶ

mail: tccc30036@gmail.com

後援 土浦駅周辺マンション連絡会



web

集合・解散（土浦まちかど蔵）



『土浦観光ガイド 土浦観光マップ』（土浦市商工観光課 一般社団法人土浦市観光協会、2024年5月）より転載

土浦聖バルナバ教会

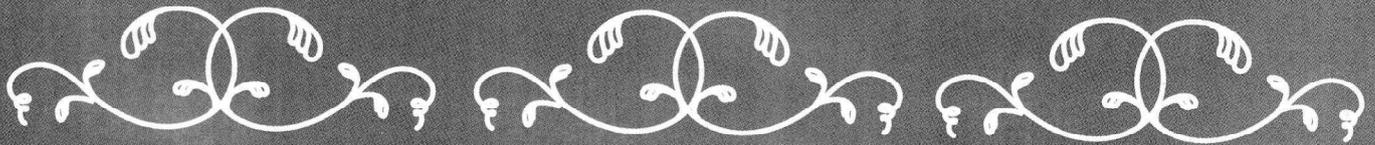
土浦聖バルナバ教会は1900年(明治33年)に伝道を開始し、1902年(明治35年)6月11日には講義所を開きました。初代の定住者として三須彦良伝道師が赴任し、早速受洗者が与えられました。

その後人事異動と移転を数度経た後、現在地に移転したのは1921年(大正10年)ごろと伝えられています。現在の建物が竣工聖別されたのは1930年(昭和5年)10月25日のことです。県南初のコンクリート製の建物で工事中は多数の見学者が訪れたと伝えられています。

毎週日曜日 10:30 ~ 主日礼拝

どなたでも一緒に礼拝に参加できます。礼拝は日本語で行われます。礼拝中に使用される聖書と礼拝用書は、礼拝中の貸し出し用を準備しています。どうぞお越しください。

そのほかの活動もあります。お問い合わせください。



私たちが気づく気づかないにかかわらず、
私たちひとりひとは神の愛によって活かされています。
一緒に祈りを捧げ、ともに神様に会える喜びを分かち合い、
祈りあい、癒されましょう。
神様と、その体である教会は、あなたのおいでを心から歓迎します。

日本聖公会 土浦聖バルナバ教会

■礼拝

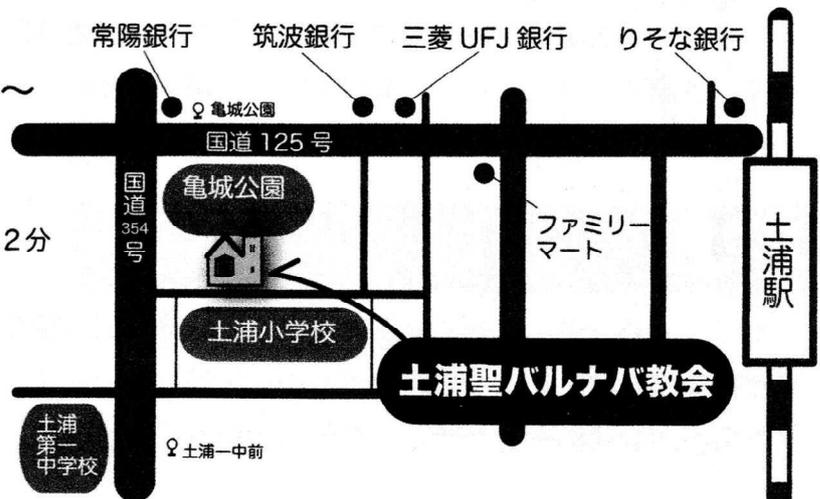
毎週日曜日 午前10時30分 ~

■交通

JR土浦駅 西口下車徒歩16分
西口バス停④⑤番から「亀城公園」下車徒歩2分

〒300-0043
土浦市中央1-15-6
TEL&FAX 029-821-7913

E-mail tsuchiura@seikokai.org
<http://tsuchiura.seikokai.org/>



COURSE
城下町周遊
コース

START 土浦駅

歩 10分
↓
🚲 8分

1 土浦まちかど蔵
「大徳」

🚲 ↓
歩 ↓

2 土浦まちかど蔵
「野村」

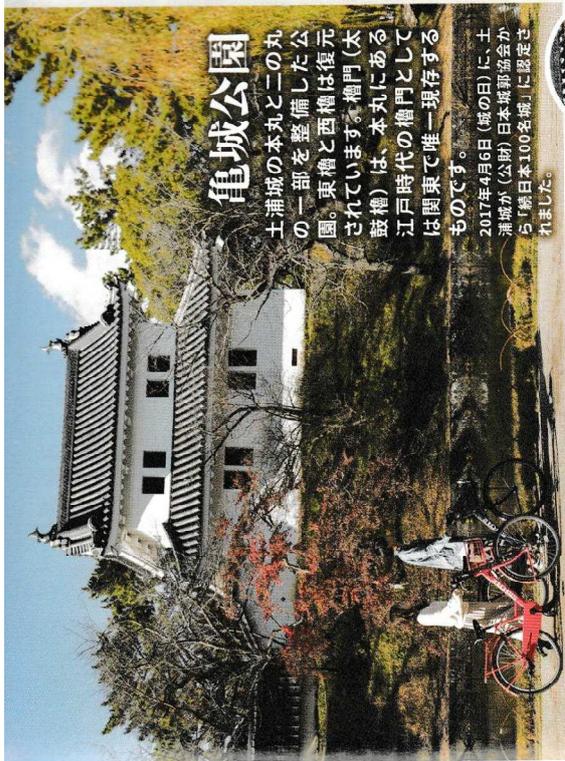
🚲 ↓
歩 ↓

3 亀城公園
(土浦城址)

🚲 ↓
歩 ↓

4 土浦市立博物館

▼10ページに続く



亀城公園

土浦城の本丸と二の丸の一部を整備した公園。東櫓と西櫓は復元されています。櫓門(太鼓櫓)は、本丸にある江戸時代の櫓門として関東で唯一現存するものです。

2017年4月6日(城の日)に、土浦城が(公財)日本城郭協会から「歴日本100名城」に認定されました。



ポイント
寄り道

句橋 (くまはし)
昭和37(1962)年に架けられた人と自転車の通行できる橋です。春には土手の桜が咲き、散歩にびびり、ぶらぶらしたい方におすす。 往 土浦市桜町2丁目 下高津1丁目付近
別冊MAP [詳細] L-16

土浦市立博物館 (つうしりつりつはくぶくかん)
「霞ヶ浦に育まれた人々の暮らし」をメインテーマに、「大木土屋家の文化」など土浦城下町の歴史と文化、特色について詳しく紹介しています。

往 土浦市中央1-15-18
☎ 029-824-2928 営 9:00~16:30
休 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始(祝日の翌日が土・日の場合除く)
¥ 一般200円、高校生以下・無料、※20名以上の団体では、一般150円/人(高校生以下:無料)
別冊MAP [詳細] L-14



土浦まちかど蔵「大徳」

江戸時代、明治時代に造られた景世蔵、神蔵、元蔵、向蔵の4棟を改修し観光情報を提供しています。

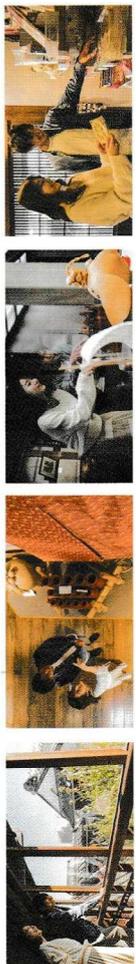


霞ヶ浦のクワンソウなどの見物で作りだすおみ人形、まちかど蔵などで見られます。ぜひ探してみてください。

ぶらり歴史めぐり

江戸情緒が息づくまち散策

江戸時代、土浦は水戸に次ぐ常陸国第二の都市として繁栄していました。今でも通りのあちこちに城下町として栄えた面影を見ることができます。



▲1 土浦まちかど蔵「大徳」
江戸時代の呉服店「大徳」を改修。観光情報やお土産の販売、レンタサイクルの貸出を行っています。

▲2 土浦まちかど蔵「野村」
江戸時代から続く商家「野村」の母屋と袖蔵、文庫蔵、レンガ蔵を改修し、民俗資料の展示・解説、観光案内などを行っています。

国登録有形文化財
土浦まちかど蔵「大徳」 (つうしりつりつはくぶくかん)
往 土浦市中央1-3-16 ☎ 029-824-2810(土浦市観光協会)
営 9:00~18:00 休 12月29日~1月3日 ¥ 入館無料
別冊MAP [詳細] L-14

国登録有形文化財
土浦まちかど蔵「野村」 (つうしりつりつはくぶくかん)
往 土浦市中央1-12-5 ☎ 029-824-2810(土浦市観光協会)
営 9:00~18:00 休 12月29日~1月3日 ¥ 入館無料
別冊MAP [詳細] L-14



喫茶「蔵」 (つうしりつりつはくぶくかん)
土浦まちかど蔵「野村」内にあります。客席は明治25年築のレンガ造の蔵の中にあり、トロな気分を味わえます。
往 土浦まちかど蔵「野村」内
営 10:30~17:30 休 12月29日~1月3日

コチャも
行ってみたい

くらしを支える土浦用水

つくば市立桜南小学校 6年 池浦美野里

土浦用水が必要とされたわけ

桜川第一揚水機場の敷地に用水路建設の経緯が刻まれた記念碑があります。

要旨

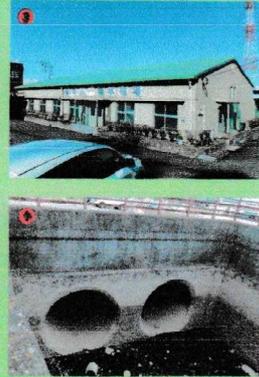


下広岡地区の水田

1. 調査のきっかけ

つくば市の下広岡地区には、「土浦用水」という農業用水路があります。水田に水を引く季節には、水がたくさん流れています。この用水路の水がどこから流れてきて、どこまで流れていくのか、調べようと思いました。

そこで、昨年の冬から春、夏と、できる限りの範囲で用水路沿いに自転車で走り、用水路の様子を記録しました。

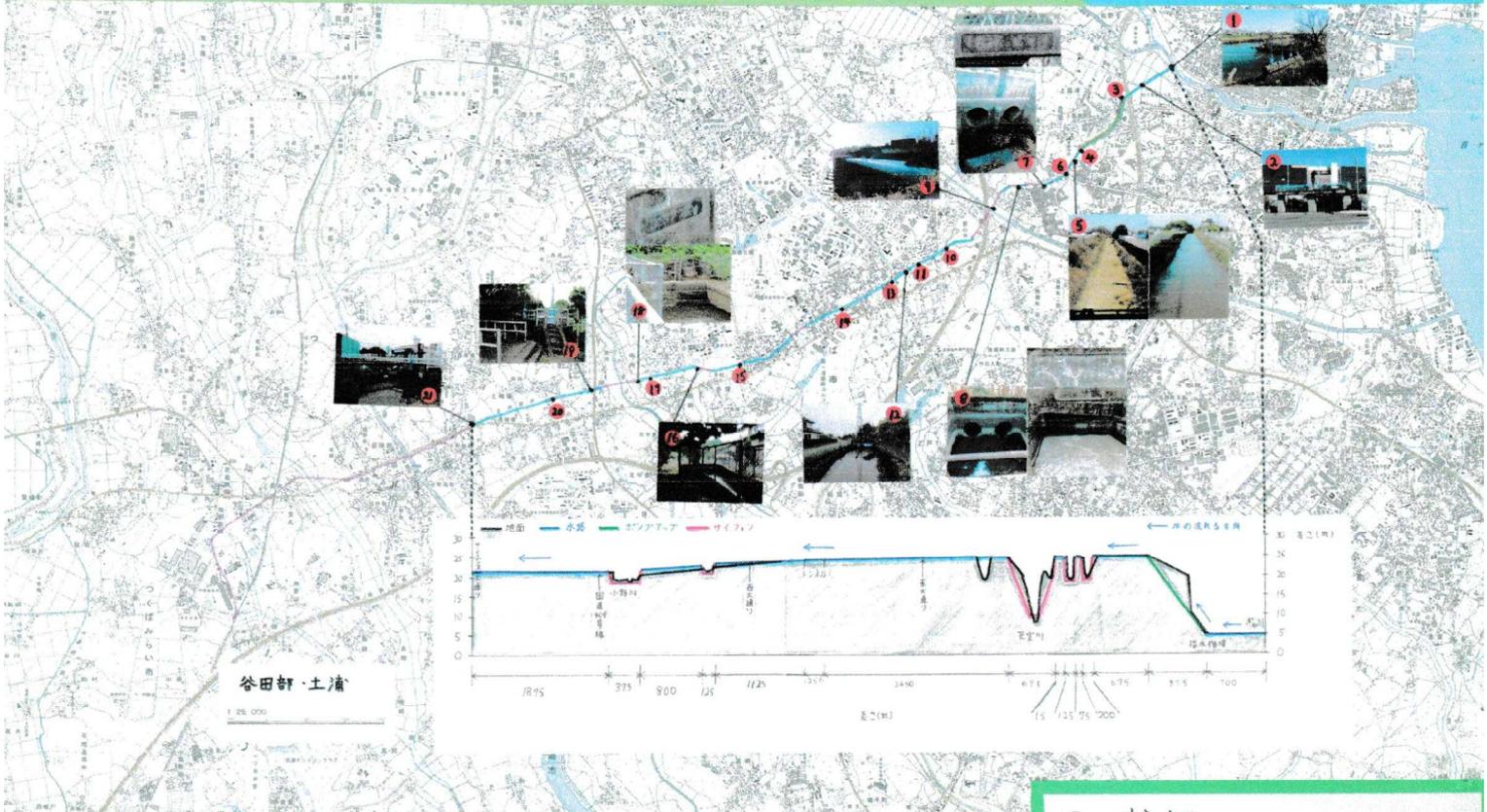


「本土地改良区の区域は、筑波山南方の桜川西岸の台地に散在する耕地、および荒川、乙戸川、小野川、東西谷田野川、蓮沼川沿岸の谷津田の2,383haと、さらに加1,590haにわぶ。

これらの耕地の水源は小川やため池に依存していたが、これらの利用率は低く、大部分は天水(雨)に頼っていた。そのため不安がひどかった。

そこで水源を水量豊かな麓ヶ浦水系に求めた。用水を完全に確保することで土地の生産性増大と労働力の省力化をはかり、農村を發尾させることを目的とした。

この渠管土浦水利事業は昭和27年に着手され、昭和45年に完了した。」



2. 分かったこと

まず地図を頼りに水路をたどると、用水の入り口が桜川にあることが分かりました。そこから用水路はイオン土浦店の下を通り、土浦市上高津の桜川第一揚水機場へつながっていました。

地図を見ると、揚水機場から水路は地中に入り土浦市天川で地上に出ています。天川の用水路出口には、トンネル状の大きな穴が2つありました。

25000分の1地図では、桜川の取水口から桜川第一揚水機場は海抜0~5m、そして天川の水路出口は海抜20~25mとなっています。揚水機場は、低い場所から高い場所へ水をくみ上げる施設であることが分かりました。

写真の説明

① 桜川取水口水門	② 水門(揚水機場前)	③ 桜川第一揚水機場
④ 用水ポンプアップ出口	⑤ ボンプアップ出口用水路	⑥ 路上の用水路石橋
⑦ 管二号サイフォン(入り口)	⑧ 下広岡サイフォン(入り口)	⑨ 花室川横断管(17m)
⑩ 盛り土部分の用水路(水田より水路が深い)	⑪ 用水路とゴミ受けフェンス	⑫ 取水口(金谷谷田野川)
⑬ 車道通り交差部分	⑭ 住宅地内所の水路と水門	⑮ 西大通り交差部分
⑯ 低い所をカブションでくぐらせる	⑰ 用水路(小野川付近)	⑱ 小野川サイフォン(入り口)
⑲ シュワ石槽取水口	⑳ 農地を流れる用水路	㉑ サイフォン入り口(28m程)

春、夏を通して、水は用水路を流れます。水は、土浦市天川~つくば市下広岡~大角豆~並木~梅園~稲荷前~小野川~上横場へと流れて行くことが分かりました。

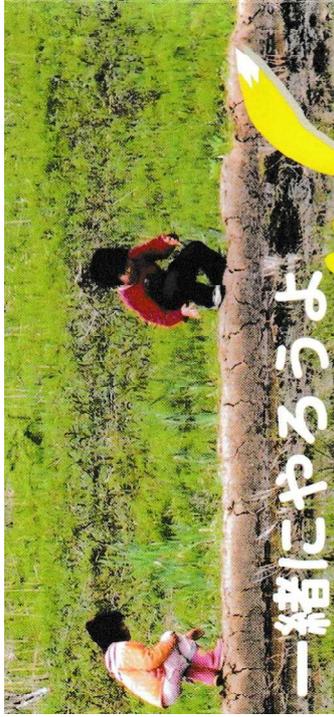
地図では上横場から用水路は地下に入り、谷田部を通り、つくばみらい市坂野新田辺りで終わっています。

3. 感想

大きな水源がない土地で、農家の人々の暮らしはとても苦しか。たどらうと思います。およそ15キロもあるこの用水路を引くには、14年という長い時間がかかりました。その間、たくさんの人手も必要だったと思います。それだけに用水路が完成した時は、みんなとても喜んだと思います。

水路を見学しているときに用水路を管理している方々に出会いました。周りの草を刈ったり、水路のゴミを回収したり、一所懸命作業されていました。用水路の水は今も田畑の大切な水として活用されています。秋にはたくさんのお米の実りが見られます。

土浦用水が農家の方々だけでなく、私たちの暮らしも支えているのだと感じました。



一緒にやるよ

写真：大野 裕子

里山子ども探偵団

発見、観察、遊び
第4土曜

- 環境教育部会**
 - 自然の学校、里山体験、実習授業受け入れ (幼・小・中・高・大・専門) 学校・福祉団体・生涯学習など)
 - 若者の活動支援
 - 環境教育学習会
- 学習会・シンポジウム**
 - 学習会 (里山について学ぼう)
 - 里山保全学習会
 - (保全の方策を考えよう)

- 広報**
 - 会報発行「五斗時」より(月刊/12頁)
 - 子ども向け行事案内「穴塚大池のお知らせ」※小中学校などを通じて配布(年11回)
 - 展示・公民館まつり、環境パネル展(年10回以上出展)
 - ホームページの運営
 - ※「穴塚」で検索してください
- つながり・交流**
 - 里山の春を楽しむ会
 - 伝統行事 (言葉遊び、お月見)
 - 野外料理 (ピザ焼き、竹筒炊飯など)
 - 収穫祭
 - 地域との交流
 - 企業との協働
 - 視察・研修の受け入れ

行政等広く社会への働きかけ

- 土浦市、つくば市、茨城県等へ保全を要望
- 公設里山自然公園化(国・県市)
- 調査**
 - 茨城県モントラリングサイト1000調査(里地コアサイト)
 - この他に、蝶、池の生きもの、野鳥、水質、植物、キノコなどの調査

- 出版**
 - 冊子「どんどころ? 穴塚の里山」(茨城県土浦市)
 - 冊子「聞き書き 里山の暮らし」(土浦市穴塚)
 - 冊子「聞き書き 里山の暮らし」(土浦市穴塚)
 - 歴史地図「里山の歴史を訪ねる散歩道」

英訳版のリーフレットもあります

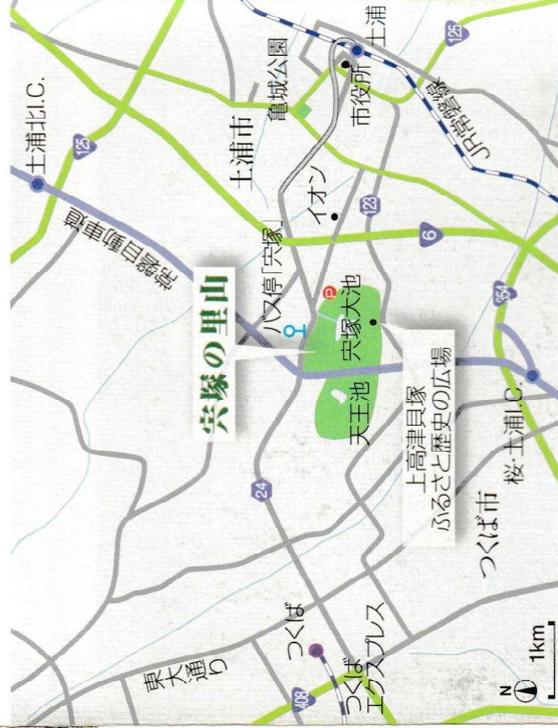


写真：奥玉正人



よろこび ししつか 穴塚の里山に

認定NPO法人
穴塚の自然と歴史の会
茨城県土浦市



- 交通のご案内**
穴塚の里山は、JR常磐線「土浦駅」とつくばエクスプレス線「つくば駅」を結ぶ、県道24号(通称 土浦学園線)のほぼ中間の位置にあります。
- JR常磐線「土浦駅」西口より
 - 関東鉄道バス筑波大学中央行「穴塚」下車、徒歩約5分。
 - つくばエクスプレス線「つくば駅」つくばセンターより
 - 関東鉄道バス竹園経由土浦駅行「穴塚」下車、徒歩約5分。
 - 車ご利用の場合
「穴塚1887の隣」ナビ検索で駐車場まで。

写真：カネコウツフク



このパンフレットは、エコーばら環境基金の助成によって作成されました。

認定NPO法人 穴塚の自然と歴史の会

- 会の主旨に賛同される方はどなたでも入会できます。
会報「五斗時だより」を毎月お届けします。
- 年会費 / 普通会員2,000円 正会員2,500円 賛助会員10,000円
 - *会への寄付は税法上の優遇措置を受けられます。
 - 郵便払込先 / 口座番号00170-0-539787 穴塚の自然と歴史の会

会員募集中

〒300-0805 茨城県土浦市穴塚1892-8
E-mail: shishituka@gmail.com
http://www.kasumigaura.net/ooike

8 馬頭観音道標

高さ 180 cm、巾 60 cm、奥行 60 cm と大きい道標がある。西側面中央には「道普請供養塔（みちぶしんくようとう）」、その右には、天下泰平、広岡村、左には国家安全、領主矢口庄次羽左衛門と彫られ、上部の円に胎藏界大日如来の種子（しゆじ：仏を表す梵字）とその周囲に梵字で光明真言が刻まれている。東側面には「馬頭観世音」と刻まれ、その右には「右谷田部水海道江戸」、さらに左側に「左荒川牛久江戸崎道」と道しるべが記されている。

道標の設置年は、「享保二丁酉歳碑」「文政十一戌子歳再建」と記され、享保2年（1717）に広岡村の住民が協力し合って街道を開設し存続を願って設置され、その後、文政11年（1828）に街道の大規模補修際して再建したものである。

馬頭観世音は街道の交通安全の願いと、亡くなった馬の供養も兼ね添えているものと思われる。



道普請供養塔

『観光ボランティアガイドと歩く街めぐり 布施街道と大聖寺巡り』
（土浦市観光ボランティアガイド協会、2025年10月9日）より転載

土浦大師不動尊

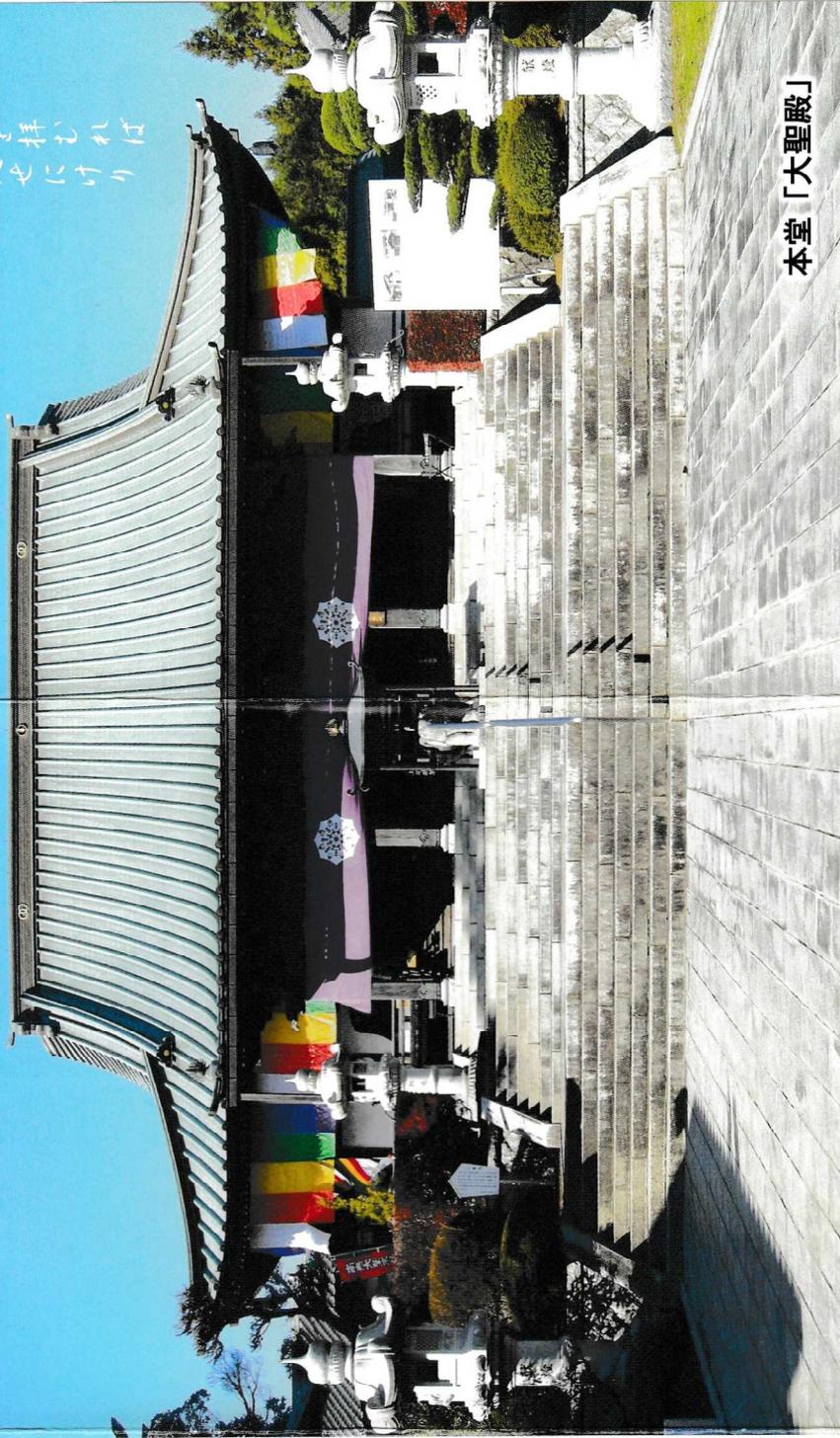
大聖寺



北関東三十六不動尊霊場
第三十一番札所

詠歌

ありがたや羽皇不動を拝むれば
背負いし懼も消え失せにけり



本堂「大聖殿」

真言宗豊山派
常陸寺
四ヶ寺

はぐろさん だいしゅうじ
羽黒山大聖寺
茨城県土浦市永国203番地
TEL (029)821-2110 (代)
FAX (029)821-2595
<http://www.daishouji.jp/>
Instagram アカウント hagurosan.daishouji

新四国八十八ヶ所
大聖寺霊場

大聖寺霊園

永代合祀ねはん廟

1,500米の
弘法大師三二霊場

普通墓地
永代供養墓地

由来

羽黒山今泉院大聖寺の歴史は平安時代まで遡る。一条天皇の御代、長徳元年（九九五）に成尊僧都により「今泉寺」として現在地附近に開山されたのが縁起だと伝えられている。

その後、小田城に拠ったこの地の豪族小田氏の当主、小田孝朝によって小田城四方護寺（常陸四ヶ寺）の一つとして、現在のつくば市西平塚に移された。しかし、大永六年（一五二六）には常陸国長国今泉寺大聖院として現在の所在地、永国に戻っていたことが東寺所蔵の「亮恵僧正門弟名帳」に記されている。今泉院大聖寺と改名されたのは、この再移転から天正四年（一五七六）迄の間のことである。

当山はこれ迄に幾度かの火災があり、貞享二年（一六八五）には堂宇を消失したが、同年、松平信興が山門を寄進するなど貞享四年には再興された。江戸時代には領主土屋政直から寺領が与えられ、この寺領は歴代の土浦城主から安堵された。延享二年（一七四五）には門末あわせて百六十カ寺を擁する檀林所格の本寺として大名と同格の十三万八千石の格式を持つ寺院として栄え、また同年十月には伝法灌頂道場も開設している。

しかしながら文久三年（一八六三）に修復なったばかりの本堂その他の伽羅を消失して明治維新を迎えた。歴代の住職や檀越が悲願とした本堂がようやく再建されたのは現住五十八世隆成代の昭和六十年（一九八五）のことであった。その後、客殿、護摩堂、大師堂等諸伽羅が整備され、平成十九年二月には秋篠宮文仁親王殿下の御台輪の榮譽を賜った。